

中部教育事務所だより

発行所 群馬県教育委員会事務局
中部教育事務所
発行人 加藤 隆浩
発行日 令和8年1月30日
〒371-0051 前橋市上細井町2142-1
TEL(027)232-6511

〈令和7年度地区別人権教育研究協議会 玉村町立中央小学校〉



人権教育主任の橋爪 いづみ教諭からは、今年度「相互尊重コミュニケーション活動」と「児童が主体的に探究する学習活動」を大切にしているとの説明がありました。担任とSCのチーム・ティーチングによる人間関係作りの授業や、日本語教室を生かした外国にルーツのある児童と共に学び合う学習活動、児童委員主体で行われる異学年交流活動「スマイルタイム」や人権集会、児童が主役となる授業の研究と実践など、様々な取組を紹介いただきました。公開授業では、「算数」「総合的な学習の時間」「外国語」の3授業を提案していただき、どの授業でも、生き生きと笑顔で活動する児童の姿が見られました。授業研究会では班別協議にて参会の皆様による熱心な協議が行われました。以下に、公開された中央小学校の3つの授業実践について紹介いたします。



実践① 2学年 算数「かけ算」人権教育重要課題(2) 子どもたち 輝 有希 教諭

同じ数のまとまりに着目し、チョコレートの数を求める方法を考える活動を通して、かけ算を使って課題解決を図りました。「きょうりょくタイム」では、自分の考え方を伝えたり友達の考え方との違いを比べたりしました。また、「ヘルプサイン」を出している友達に対して、互いに協力して対話・交流しながら解決に向けて試行錯誤する姿がありました。発表の場面では、多様な考え方があることを知るとともに、それぞれの考え方のよさを尊重しながら「ハンドサイン」を用いて認め合うことができました。



実践② 4学年 総合的な学習の時間「ともに手をとりあって～未来のケアを考えよう～」

人権教育重要課題(4) 障害のある人たち 猪熊 和司 教諭

福祉体験で得た気付きを基に、困難さを解決するために役立つ道具のアイデアをグループでまとめ、中間発表を行いました。猪熊先生の丁寧な働きかけと常時指導で培われた心理的安全性の中で、児童は自分の「思い」を発信し、友達や外部講師の助言を取り入れながら考えを深めました。授業を通して、互いの違いを受容し、尊重し合う態度が育まれている姿や、他者と協働してよりよい社会を築こうとする意識が高まる姿が見られ、人権教育の意義を実感する学びとなりました。



実践③ 5学年 外国語「Unit 7 Welcome to Japan」人権教育重要課題(2) 子どもたち 源川 直哉 教諭

「フィリピンの小学生が日本に来たいと思えるような、『日本のよさ紹介』にするにはどうしたらよいか」という共通の課題を確認し、相手意識を大切にしながら、グループ同士での中間発表会に臨みました。発表のよさを伝え合ったり、改善へのアドバイスをし合ったりしながら、互いの発表がよりよいものになるように試行錯誤する姿が見られました。異なる能力・考えをもった児童同士が互いを受け止め、認め合い、小集団として、相手意識や仲間意識をもって協力して活動に取り組んでいました。

